

## 第1章 戦場

従軍生活

# 戦争中、軍隊が月寒にあった！

福島淑江さんのお話から

戦争当時、月寒には軍隊がありました。

私は、昭和の初めから月寒に住んでいました。父は、そこで、荒物雑貨商を営んでいました。主に、農家を相手に商売をしていました。

当時、月寒は、アンパンが有名で、お店は五店ありました。兵隊さんや町の人がたくさんアンパンを買っていたためでしょう。しかし、今は、月寒中学校の向かいにあるお店一店だけになってしまいました。

また、月寒にはバスが走っていて、バス停が軍の営門前にありました。市内から来るバスの終点でした。そのため、西岡に住んでいる人などは、ここまで馬車で来て、バスに乗ってしました。その頃の月寒と豊平の間の坂は、今よりも急で、町から自転車で帰る時は、降りて斜めに上っていました。この道路は、千歳まで伸びていて、戦後は弾丸道路とも言われています。そこで、戦争に敗けた日本軍の兵舎の中に住居を構えたアメリカ兵が、道の両側の家を下からせて拡張し、坂も直しました。それで、今のような国道三十六号となりました。

私は、戦争中、月寒にあった防空作戦室で、女子通信隊として働いていました。隊員のみなさんは、女学校を卒業したばかりでした。私は三歳年上だったので、班長になりました。この防空作戦室は、月寒の軍の敷地内にありましたが、軍の営門からは、ここで働く人しか入ることができませんでした。一般の人は、許可がないと入れません。そのため、まちの人は、広大な軍の敷地をぐるっと回らなければ、反対側に行くことができませんでした。

○弾丸道路 現在の国道  
36号。

○荒物雑貨商 ぜろやほ  
うきなどの雑貨や、みそ、  
しょうゆなどを売るお  
店。

○土壘 土を盛り上げて築いた小さなとりで。

○監視哨 一地にとどまり敵の動静を見張りする所。

また、軍のことは秘密ひみつでしたので、周りの人も、それが何の建物であるかさえ知りませんでした。建物は、空から敵に見つからないように、屋上には、草を植えていました。周りからも、どんな仕事をしているのか、聞かれたことはありませんでした。

敷地内には、女子通信隊の宿舎しゆくしゃがあり、土壘どるいに囲まれていました。その宿舎しゆくしゃまでは、作戦室から歩いていかなければなりません。しかし、その途中には、本部があり、部隊長や隊長の部屋の前を通る時には、窓に向って敬礼けいれいして通らなくてはいけませんでした。

女子通信隊には、情報班じょうほうばんと警報班けいほうばんの二つがあり、電話の係の人もいました。

情報班じょうほうばんの仕事は、北海道各地に何か所があった民間と軍の監視哨かんししやうから飛行機がどちらの方向から来て、どちらの方向に行ったのかという情報じょうほうを電話でもらい、その情報じょうほうを装置ちぢに入力するというものでした。この作業をすると、地下作戦室にある大きな地図などにランプが点灯し、飛行機の飛行状況が分かるようになって



イメージ図

女子通信隊

戦争中、軍隊が月寒にあった！

ていました。

警報班けいほうの仕事は、空襲警報くうしゅうけいほうを出したり、あちこちから来る指揮しきや命令を地下作戦室に持っていき係に渡したりすることでした。このように、情報班じょうほうと警報班けいほうでは、それぞれ担当が違いました。

勤務きんむは、一日三交代でした。交代の時間は、朝九時とお昼、そして、夜中の二時でした。それを五班で分担していました。交代が日中なら家に帰り、夜の時は宿舎しゆくしゃで休んで朝になってから帰りました。また、夜当番の人は、早くから来て宿舎しゆくしゃに泊まり、夜中に交代して朝まで勤務していました。その夜中の勤務交代は、眠くて辛かったです。

休みの日はありましたが、教育日といって、茶道さどうや華道かどうなどをしていました。ただ、映画を観に行くこと



イメージ図

アッツ島の碑

○護国神社 明治維新前後から国家のために亡くなった人の霊をまつる神社

○ノモンハン事件 昭和十四年（一九三九年）、満州国とモンゴル人民共和国の国境地帯で起きた、日本軍とソ連・モンゴル両軍との軍事衝突。日本軍は大敗した。

○アツツ島 表紙裏地図

○山崎部隊 北部軍のアツツ島守備隊長山崎保代氏が率いた部隊。昭和十八年（一九四三年）九月二十八日、全員玉砕。

もありました。月寒には映画館がなかったの、狸小路まで行って観ました。当時はおやつなどありませんでしたが、軍では支給され、それが楽しみでした。時々、月寒アンパンや羊羹などが出来ることもあり、みんな楽しみでした。こうしたものは、民間にはなく、軍で働いていたから出たものだと思います。貴重なものでした。

食事は、当番が盛り付けし、寝泊まりするところで食べていました。

また、医務室があり、そこには女子通信隊の看護婦さんがいて、具合が悪いと診てくれて、治療してくれました。ただ、みんな若かったので、厳しい仕事でも病気になる人はあまりいませんでした。

終戦近くなると、ソ連が攻めてきました。そうすると、急に忙しくなりました。兵隊さんも、通信隊も、てんてこ舞いでした。

札幌市内の護国神社には、ノモンハン事件の碑やアツツ島の碑など、いろいろな碑があります。

これは、若い命を国のためにつくして亡くなった人たちをむらうものです。実は、私のいところも山崎部隊に所属していた、戦死しています。なかなか触れられていないので、若い人は知らないと思います。

でも、この戦争で、無念の涙を飲んで戦死していった人たちの思いを、ぜひ知ってほしいと思います。

DATA

平成21年度豊平区平和事業

聴き取り

- ・平成22年2月2日
- ・札幌市役所



福島淑江(ふくしま・よしえ)さん

- ・大正12年(1923年)生まれ
- ・札幌市豊平区在住

戦争中、軍隊が月寒にあった！